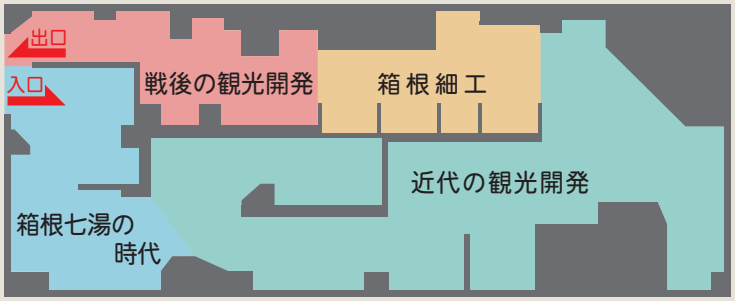
箱根の温泉と観光の歴史（常設展示）

今では町内に17の温泉を数え、国内有数の温泉観光地として知られる箱根町ですが、この「温泉」と「観光」の歴史は、そのまま箱根の歴史と言ってよいほど、深い関係があります。

常設展示では主に観光開発をテーマにして、江戸時代から現在までの箱根の歴史をご紹介します。



箱根七湯の時代～湯治場から観光地へ

江戸時代の17世紀後半、箱根には既に「箱根七湯（はこねななゆ）」と呼ばれる7つの温泉場がありました。元々は病気の療養に使われていた温泉も、次第に絶景や名所を訪ね、温泉を楽しむ旅へと変わります。こうした風潮に合わせるかのように、箱根は温泉観光地へと歩みはじめます。

江戸時代の旅道具

箱根七湯一覧

近代の観光開発～箱根十二湯へ

明治時代以降、箱根では新道開発や交通機関の整備が進むとともに、外国人の来遊や有力者の高級別荘地の登場、さらには観光の大衆化など、その利用形態も多様化していきます。そうした中、箱根の各地にも新たな温泉場が開かれるとともに、鉄道やケーブルカー、さらにはバスや遊覧船など、新しい交通機関が次々と登場し、温泉観光地としてさらなる発展を見せます。

チェア（複製）

箱根名所図絵

箱根細工～その歴史と技法

箱根を代表する伝統工芸品として有名な寄木細工（よせぎざいく）は、人気の土産物です。しかし、箱根における木工細工の歴史は古く、「ろくろ」を使って回転させた材料を削って作る入れ子細工やお盆などや、板材を組み合わせて作るタンスや小箱など、様々な製品が作られました。寄木細工や象嵌細工（ぞうがんざいく）は、その装飾技法として発展したものです。現在、国の登録有形文化財「箱根細工の制作用具及び製品」となっている館蔵資料から、その歴史や技法を紹介します。

センガンナ

戦後の観光開発～全山の観光地化

高度成長期以降、急速に観光地化が進んだ箱根では、自動車専用道路の開通や、ロープウェイなどの交通機関も新たに登場する一方、激化する企業間の開発競争は社会問題にもなりました。さらに、これまで温泉がなかった地域にも温泉が開かれ、箱根全域にわたって温泉開発が進みました。

また、今では観光の魅力となっている、箱根に残る様々な文化財についても紹介しています。

戦後発行のパンフレット類

箱根旧街道の石畳模型